

「なぜこんな田舎の病院を」

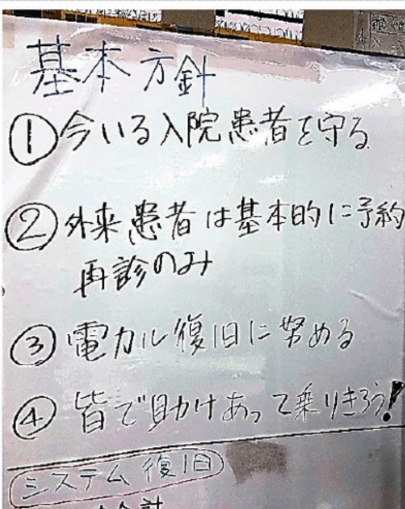
1面から続く

ランサムウェア(身代金ウイルス)によるサイバー攻撃をきっかけにすべてのシステムがダウンした町立半田病院(徳島県つるぎ町)では、通常診療の再開に向けた職員たちの苦闘が続いている。

カルテ消失 患者情報一から把握 会計システムダウン 経営も直撃



⑤ランサムウェア攻撃をきっかけにシステムがダウンした町立半田病院
④半田病院の対策本部に掲げられた四つの基本方針(いずれも15日、徳島県つるぎ町、須藤龍也撮影)



病院の対策本部は、予約の再診患者だけを対象に「最低限の医療」を提供すると決めた。だが、すべての電子カルテが失われたことで、患者の情報を一から把握し直すという困難な作業が立ち上がった。地域の基幹病院で、顔なじみの



須藤泰史医師

患者も多い。それでも職員らが一人ひとりに声をかけ、個人情報や診療内容について聞き取った。近隣の調剤薬局からは薬の処方歴を、紹介先の病院からは過去に送ったカルテを取り寄せた。紙のカルテに書き写

したり、貼り付けたりした。「患者さんに『いつから通院してましたっけ』と聞かなくてはならない。申し訳なく、情けない」。病院事業管理者の須藤泰史医師は取材に語った。

病院の経営も直撃している。会計システムが止まったため、診療費用を請求できずにいる。入院患者も減らしており、普段は7割近くが埋まる120床のベッドが11月下旬には4割に落ち込んだ。「給与やボーナスは大丈夫?」。職員から不安の声が上がる。

VPN機器を院外と接続

電子カルテのシステムが2日間使えなくなったことがあった。厚生労働省が作成したガイドラインに基づき、ネットワークは病院内で閉じられたはずだった。だが、再

発防止に向けた有識者会議の会長を務めた立命館大の上原哲太郎教授は「何らかの理由で一時的に外部のインターネットと接続されていたようだ」と話す。病院では各診療科が独自に機器を調達し、感染の原因はわからなかった。「院内に情報管理の責任者がおらず、セキュリティ対策も業者にお任せの状態だった」

半田病院のコンピュータがなぜ感染したのかも不明だ。ただ、院内のネットワークに外部からアクセスできる「VPN(仮想プライベートネットワーク)の通信機器が複数、接続されていた。電子カルテシステムを

被害から約3週間を経て、まずは小児科と産科の通常診療を再開。システムが復旧する見通しは立っていないが、地域の要望が多い診療科だけに、それ以上休むことはできなかった。病院は26日に会見を開き、電子カルテシステムを作り直して再出発すると表明した。来年1月の通常診療再開をめざす。地域の医療体制に穴が開いており、選択の余地はなかった。「収入がない状態が続いており、このままでは診療

がままならなくなる。会見でこう語った須藤医師。取材に憤りを込めて語った。「本当になぜこんな小さな田舎の病院を狙ったんだ」

遠隔操作で業者がメンテナンスしたり、県内の医療機関と患者の情報を交換したりするため。VPN機器の一部で今年9月、外部から不正侵入できるとする機密情報がネット上で暴露されるなど、ハッカーが狙いを定めている実態が明らかになった。セキュリティ専門家三国貴正さんは6月以降、中小の病院から4件の被害相談を受けた。いずれも内部情報が盗まれ、外部に流出した痕跡が見つかった。三国さんは医療機関を狙った攻撃が増えているという実感があるという。その根拠として、サイバー犯罪者が盗み出す内部情報を探るキードリストを示した。「カルテ」「外来」「問診」。そんな単語がウイルスに埋め込まれていたという。

テレワークも標的

ランサムウェア攻撃の被害は尋常でない勢いで増え、日本を含む各国の政府機関や警察当局が繰り返し注意を呼びかけている。

米財務省は10月、報告を寄せた組織の被害額が、今年上半年期だけで5億9千万ドル(発表当時のレートで約670億円)に上ると公表。これは過去10年の年ごとの被害総額を上回るペースだ。

日本の警察庁のまとめでは、警察に報告があった被害件数は今年上半年期で61件。昨年下半年期の3倍に増えた。調査や復旧に1千万円以上かかったケースも複数あったという。

被害が増えた原因として挙げられるのがコロナ禍のテレワークだ。自宅から会社や組織のネットワークに接続するために大量のVPN装置が設置された。そうした機器に残された未修正の欠陥がハッカーに狙われたとみられている。

「VPN(仮想プライベートネットワーク)の通信機器が複数、接続されていた。電子カルテシステムを

遠隔操作で業者がメンテナンスしたり、県内の医療機関と患者の情報を交換したりするため。VPN機器の一部で今年9月、外部から不正侵入できるとする機密情報がネット上で暴露されるなど、ハッカーが狙いを定めている実態が明らかになった。セキュリティ専門家三国貴正さんは6月以降、中小の病院から4件の被害相談を受けた。いずれも内部情報が盗まれ、外部に流出した痕跡が見つかった。三国さんは医療機関を狙った攻撃が増えているという実感があるという。その根拠として、サイバー犯罪者が盗み出す内部情報を探るキードリストを示した。「カルテ」「外来」「問診」。そんな単語がウイルスに埋め込まれていたという。

(編集委員 須藤龍也、斎藤智子)

